

# クエの栽培漁業研究

(予算区分 行政費 研究期間 2023年度～)  
担当：水産・海洋技術研究所伊豆分場 長谷川雅俊

## 【研究の背景とねらい】

- クエは関東以南の太平洋沿岸から東シナ海沿岸に分布し、定置網や釣りで漁獲されます。全長1.5m、体重50kgほどに成長する大型魚で、食味が良いことから高級魚として扱われています。しかし、水揚げ量は少なく、“幻の魚”とも呼ばれています。
- 第8次栽培漁業基本計画で、クエは研究対象種として位置付けられ、種苗生産施設で量産を実施し、放流対象種としての適性について検討することとされています。
- 現在、不定期に漁業者による種苗放流が行われていますが、放流方法や回収率などの放流技術が確立されていません。
- そこで、クエの放流対象種としての適性を明らかにするために、漁獲資料を収集するとともに資源生態、放流技術について解明していきます。

## 【これまでに得られた成果】

- 伊東市場においてクエの漁獲物調査を行ったところ、秋以降、定置網や一本釣りによるクエが水揚げされており、その大きさは全長41～109cm、体重0.8～23kgでした。漁獲物の中心は全長50cm台、平均体重2.6kgで比較的小型でした。
- 過去、榛南海域の放流時にアンカータグによる標識付けが行われていましたが、再捕報告はなく、近年腹鰭抜去方式に変えています。本所普及総括班が行った標識試験の結果を取りまとめました。
- アンカータグの脱落試験（図1）では装着後2年を過ぎるとタグ脱落率は8割に達し、アンカータグは標識として有効ではありませんでした。
- 腹鰭抜去の再生試験（図2）から鰭抜去の非再生率は2歳後半まで8割を超えていたため、腹鰭抜去は標識として有効であることがわかりました。

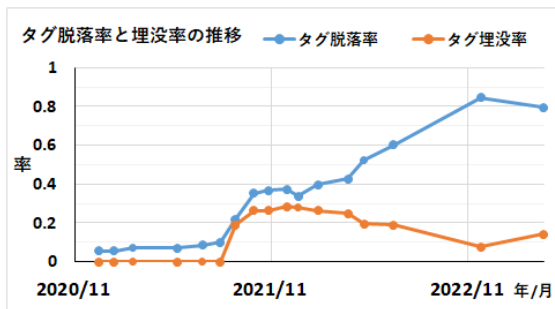


図1 アンカータグ脱落試験の結果

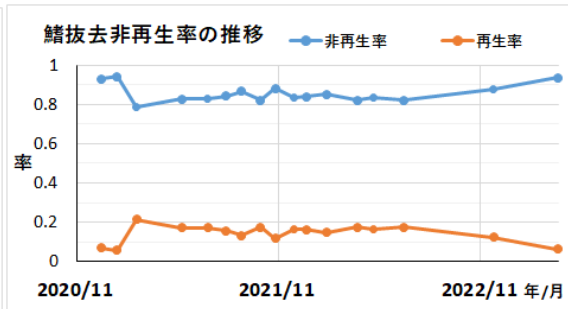


図2 腹鰭抜去再生試験の結果

## 【期待される効果】

- クエの資源生態の解明、放流技術の確立によって、放流対象種としての適性が明らかになり、栽培漁業が推進されます。

## 【年次計画】

- クエの漁獲を遊漁の実態を含めて、明らかにします。
- 市場調査で漁獲物を測定し、成長、生残等の情報を得ます。
- 種苗生産施設と共同で、成熟、初期生態についてまとめます。
- 放流後の観察や標識放流によって、放流方法や場所の適否、漁獲回収の状況を明らかにします。

(作成 2024年4月)